

ばんえつアートライン事業

ふるさとを描きつづけた画家

酒井三良展

— 喜多方美術倶楽部とその時代 —

三館 合同企画・同時開催



「籠居雪声」 新潟県立近代美術館蔵

■ 2001年 8月4日(土) ▶ 9月2日(日)

- ◆ 開館時間：午前10時～午後6時（ただし午後5時30分まで入館ください）
- ◆ 休館日：毎週月曜日
- ◆ 観覧料：大人500円（400円） 高大学生300円（250円） 小中学生200円（150円）
※（ ）内は20名以上の団体割引料金です

- ◆ 主催：喜多方市美術館 / やないづ町立斎藤清美術館 / 三島町交流センター 山びこ
- ◆ 後援：日本美術院
福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島支局 読売新聞福島支局 毎日新聞福島支局
日本経済新聞社福島支局 産経新聞福島支局 河北新報社福島総局 会津日報 NHK 福島放送局
福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ラジオ福島 エフエム福島 エフエム会津

喜多方市美術館

KITAKATA CITY MUSEUM OF ART

〒966-0094 喜多方市市押切 2-2 0241-23-0404

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/> e-mail:bijyutsu@city.kitakata.fukushima.jp





1



2



3



4



5

酒井三良は明治30年(1897)、福島県大沼郡三島町で生まれた日本画家です。大正の初め俳人である叔父を頼って上京し、坂内青嵐に師事して絵の世界に入りました。

大正8年(1919)、第2回国画創作協会展に「雪に埋もれつつ正月は行く」が入選し、三良の出世作となります。翌年、会津をスケッチ旅行中の小川芋銭と耶麻郡の山都で出会い、勧められて再興第8回院展に「災神を焼く残雪の夜」を出品して初入選します。大正10年(1921)のことで、闇の中に燃え盛る炎とそれを取り巻く群衆の大胆な描写は大きな反響を呼びました。これを契機に院友に推挙されることとなり、「災神を焼く残雪の夜」は、三良の代表作の一つとなります。

望郷の景色や風習を素朴な描法で表現した作品はその後、師と仰ぐ芋銭の影響を強く受けたと言われ、さらりとした俳画のような作風に変貌して行きます。

三良の作品は、初期の着彩画から晩年は水墨による枯淡と飄逸の画境へと作風は展開しましたが、いずれの作品も細やかな詩情を漂わせ、殊更に構えない日常の風景とそこに生きる人々の息づかいを表現しつづけ、郷土色にあふれています。日本美術院を代表する作家の一人として活躍した三良が、「ふるさとを描きつづけた画家」と言われる所以でもあります。

明治から大正にかけて、山都村(今の耶麻郡山都町)の田代蘇陽(本名與三久)らが中心となり、喜多方町(今の喜多方市)の実業家や素封家たちが「喜多方美術倶楽部」を結成し、その頃のそうそうたる画家たちを山都や喜多方に招いて、画会や頒布会を開いた歴史があります。このきっかけをつくったのが、会津若松の長尾柳崖の紹介で田代と親交を持つこととなった小川芋銭で、「喜多方美術倶楽部」の会長には田代與三久が、顧問には森田恒友とともに小川芋銭が就いています。

大正10年(1921)、蘇陽の別荘である山都の南山荘に逗留していた三良は、ここで初めて芋銭と出会い、以来芋銭に私淑することとなります。芋銭もまた三良の謙虚な人柄と純朴な作風を愛し、折りにふれて書簡などで三良を励ましつづけてきました。

「大正浪漫・喜多方美術倶楽部とその時代」をテーマに、この展覧会では特に、酒井三良と小川芋銭との関係にスポットをあてています。

このたびは、三島町交流センター山びこ、やないづ町立斎藤清美術館がともに、「ふるさとを描きつづけた画家・酒井三良」を共通のテーマに、会期を同じくして展覧会を開催しています。これらの展覧会を合わせてご覧いただくことで、三良の魅力をより深く感じていただけるのではないかと思います。



6

- 1 酒井三良 春秋屏風図「麗春」
- 2 酒井三良 「雨はれ」
- 3 酒井三良 「雪路」
- 4 酒井三良 「初夏」
- 5 酒井三良 春秋屏風図「清秋」
- 6 小川芋銭 「獺祭」

■講演会
 「故郷をもった美術 酒井三良の絵画世界」
 8月18日(土) 午後1時30分 聴講無料
 酒井哲朗氏(福島県立美術館長)

■会場
 三島町交流センター 山びこ イベントホール

・財団法人地域創造「地域の芸術環境づくり支援事業」
 この事業は、ジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施するものです。

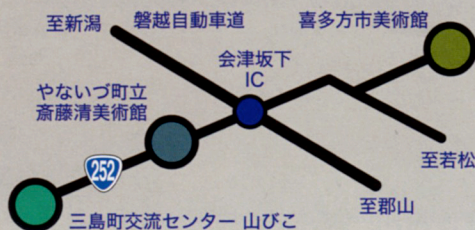
やないづ町立斎藤清美術館

TEL 0241-42-3630

斎藤 清 二人展 酒井三良

1954年(昭和29)二人展、1963年(昭和38)三人展を開催するなど、お互いに親交があった二人。戦後から晩年にかけての三良作品と斎藤清の作品展です。

「かまくら」酒井三良



三島町交流センター山びこ

TEL 0241-52-2165

酒井三良展

—三良とゆかりの画家たち—
 三良の大正時代の代表作や初期作品を展示。また三良とゆかりがあった同時代の画家(大観、青邨、観山、百穂、龍子、土牛など)の作品も紹介します。



「雪に埋もれつつ正月はゆく」酒井三良